

第5学年 単元の目標と評価の具体例

◎ 算数のとびら（算数の学習の進め方）					
目 標					指導時数・時期
○ 小数点以下の桁数の違う小数の加減計算について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して小数の加減計算についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。					1時間 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬
評 価					
(知) ・算数の学習を進める手順を知り、図、式、ことばなどを用いて考えたり、説明したり、話しあったりすることのよさを理解している。					
(思) ・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりしている。					
(態) ・自らが主体となる学習の進め方に関心を持ち、話し合い活動や発表に進んで取り組んでいる。学習を進める手順や話し合いの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	4～8	○小数の加法・減法の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・学習の進め方 ・小数点以下の桁数が違う小数の加減計算 ・ノートのかき方 ・見方・考え方	(思判表)小数点以下の桁数の違う小数の加減計算の方法を考えたり、ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》 (態度)学習を進める手順や話し合いの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。《観察・ノート》

1 整数と小数					
目 標					指導時数・時期
○ 整数や小数について、10倍や1/10にしたときの小数点の移動の仕方を考えることを通して、十進数の仕組みや表し方の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
評 価					
(知) ・小数も整数と同じ十進位取り記数法をもとにしていることを理解し、整数や小数を10倍、100倍、1000倍した数や、1/10、1/100、1/1000にした数を求めることができる。					
(思) ・十進数の仕組みや表し方に着目して、整数や小数を10倍、100倍、1000倍したり、1/10、1/100、1/1000にしたりしたときの小数点の移動の仕方を考えている。					
(態) ・小数と整数の仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「小数」	
(課題設定)	1	10 11	○整数や小数の仕組みを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○小数点の位置に着目し、整数や小数を10倍、1/10にしたときの表し方を考えることができる。	・数字が同じ小数を比べることによる小数点の移動の動機づけ ・10倍や1/10にしたときの小数点の移動	(態度)整数や小数の仕組みや表し方に関心を持ち、これまでの学習と関連づけて取り組もうとしている。《観察》 (思判表)小数点の位置に着目して、10倍や1/10の数について考えている。《発言・観察》
	2	12	○10倍、100倍、1000倍したときの小数点の位置の移動について考え、数の仕組みを理解することができる。	・記数法の仕組みと100倍や1000倍したときの小数点の移動	(思判表)10倍したときの小数点の位置の移り方をもとに、100倍や1000倍したときの仕組みを考えている。《発言・ノート》 (知技)10倍、100倍、1000倍したときの数の仕組みを理解している。《観察》
	3	13	○1/10、1/100、1/1000にしたときの小数点の位置の移動について考え、数の仕組みの理解を深めることができる。	・記数法の仕組みと1/100や1/1000にしたときの小数点の移動	(思判表)1/10にしたときの小数点の位置の移り方をもとに、1/100や1/1000にしたときの仕組みを考えている。《発言・ノート》 (知技)1/10、1/100、1/1000にしたときの数の仕組みを理解している。《観察》
学びのまとめ	4	14～15	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

2 体 積					
目 標					指導時数・時期
○ 直方体や立方体の体積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、体積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 2学期制：4月中旬～4月下旬 3学期制：4月中旬～4月下旬

評 価					
<p>(知) ・体積や容積の意味がわかり、単位「<math>\text{cm}^3</math>」「<math>\text{m}^3</math>」を知り、直方体や立方体の体積を求めることができる。</p> <p>(思) ・長方形や正方形の面積の求め方や公式をもとにして、直方体や立方体の体積の求め方や公式を考えたり、これを活用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫したりしている。</p> <p>(態) ・直方体や立方体の体積の表し方や求め方に進んで関わり、ふり返りを通して適切な普遍単位を用いて大きさを数値化することのよさや公式を導き活用する意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「面積」	
(課題設定)	1	16	○直方体と立方体の大きさ比べを通して、体積について考えていくという単元の課題をつかむ。	・体積の概念、体積の表し方や求め方の動機づけ	(態度)面積の表し方をもとに単位立方体を使って体積の表し方を考えようとしている。《発言・観察》
①直方体・立方体の体積		17	○体積の単位 $\text{cm}^3$ について知り、 $\text{cm}^3$ を使って体積を表すことができる。	・直方体や立方体の体積の表し方とその単位「1立方センチメートル」 《体積、立方センチメートル( $\text{cm}^3$ )、 $1\text{cm}^3$ 》	(知技)体積の単位 $\text{cm}^3$ の意味を理解し、それを使って体積を表すことができる。《発言・ノート》
	2	18～19	○直方体や立方体の体積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。	・直方体と立方体の体積の求積と公式	(思判表)縦、横、高さに着目して、 $1\text{cm}^3$ の立方体が何個分あるかを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)公式を用いて、直方体や立方体の体積を求めることができる。《ノート》
	3	20～21	○容積の意味を知り、その求め方を考えることができる。 ○水などの体積を表すときによく用いられる単位 L と $\text{cm}^3$ の関係を理解することができる。	・容積の意味と求積 《容積、内のり》 ・ $1\text{L}=100\text{cm}^3$ ・ $1\text{L}=1000\text{cm}^3$ をもとにした箱作り	(思判表)内のりに着目して、容積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技) $1\text{L}=1000\text{cm}^3$ であることに気づく。《ノート》
	4	22～23	○L字型などの複合立体図形を分割したり補完したりして、その体積を直方体の体積公式を使って求め、説明することができる。	・複合図形の体積の求積	(思判表)複合立体図形の体積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)複合立体図形の求積に意欲的に取り組み、直方体や立方体の体積の公式を用いることのよさに気づき、いかそうとしている。《発言・観察》
②大きな体積	5	24	○長さの単位に着目して、辺の長さが m で表された直方体や立方体の体積を求めることができる。 ○単位 $\text{m}^3$ について知り、 $\text{m}^3$ を使って体積を表したり、 $\text{cm}^3$ との関係を理解したりすることができる。	・大きな体積の求積とその単位「1立方メートル」 《立方メートル( $\text{m}^3$ )、 $1\text{m}^3$ 》 ・ $1\text{m}^3=1000000\text{cm}^3$	(思判表)辺の長さが m で表された直方体や立方体の体積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)辺の長さが m で表された直方体や立方体の体積を求めることができる。《発言・ノート》
	6	25	○ $1\text{m}^3$ の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその体積や容積を求めたりすることができる。	・ $1\text{m}^3$ の量感	(態度) $1\text{m}^3$ の体積の量感を身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》 (知技)量感をもとに、適切な単位を選択できる。《ノート》
③体積の単位の関係	7	26	○単位の仕組みに着目して、長さ、面積、体積の単位の関係を考えることができる。	・長さ、面積、体積の単位の関係 《キロリットル( $\text{kL}$ )、 $1\text{kL}$ 》 ・算数探しの活動	(思判表)長さの単位の関係をもとに、面積や体積の単位の関係を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●練習	8	27	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	9	28～29	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

3 比 例					
<p>○ 伴って変わる2つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して比例の意味を理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					
<p>2時間 2学期制：5月上旬 3学期制：5月上旬</p>					
<p>(知) ・比例の意味を知り、簡単な場合についての比例の関係を理解することができる。</p> <p>(思) ・簡単な場合について、比例しているかどうかを判断している。</p> <p>(態) ・伴って変わる2つの数量の関係に進んで関わり、ふり返りを通して比例という数量関係の特徴を見いだすことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「変わり方」	
(課題設定)	1	30	○レンガや植木鉢を積み重ねたときの高さの変わり方を考察することを通して、単元の課題をつかむ。	・伴って変わる2つの数量を見つけることによる比例の動機づけ	(思判表)比例するかどうかを判断し、その根拠についても考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
		31～32	○伴って変わる2つの数量の変わり方を調べて、比例する関係をとらえる。	・伴って変わる2つの数量の関係の調べ方、比例の定義とその判断、直方体の高さや体積の比例関係	(知技)簡単な場合について、比例の関係を理解している。《観察・ノート》

2	33	○比例の定義をもとに、かけ算の式の意味をとらえ直すことができる。 ○数直線図について知る。	・比例にもとづいたかけ算の意味の見直し、数直線図	(態度)比例関係をもとにかけ算の式の意味をとらえることに取り組み、学習にいかそうとしている。《発言・ノート》
---	----	--	--------------------------	--

## 4 小数のかけ算

目 標		指導時数・時期			
○ 小数をかける計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のかけ算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		11 時間 2 学期制：5 月中旬～5 月下旬 3 学期制：5 月中旬～5 月下旬			
評 価					
(知) ・小数の乗法の意味やその仕方を理解し、小数の乗法の計算ができる。また、小数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを知る。					
(思) ・小数の乗法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えている。					
(態) ・小数の乗法の式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して既習の比例や整数の乗法をもとにして考えることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数×整数」	
①整数×小数	1	34	○生活場面から、小数をかけるかけ算について考えていくという単元の課題をつかむ。	・小数をかける学習の動機づけ	(態度)整数の場合との違いに着目し、小数をかける式や計算について考えようとしている。《発言・観察》 (思判表)図を用いるなどして数量の関係に着目し、小数をかける式の意味を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
		35	○(整数)×(帯小数)の場面を式に表し、乗法の意味について考え、理解することができる。	・(整数)×(帯小数)の立式とその根拠	
	2	36～37	○(整数)×(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	・(整数)×(帯小数)の計算の仕方	(思判表)見通しを立てて、整数に小数をかける計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)整数に小数をかける問題で、式にかいて計算することができる。《ノート》
	3	38	○(整数)×(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(整数)×(純小数)の立式と計算の仕方	(知技)整数に純小数をかける問題で、式にかいて計算することができる。《発言・ノート》
②小数×小数	4	39	○乗数の大きさによって、被乗数と積の大小関係を判断することができる。	・乗数と積の大きさの関係	(思判表)乗数に着目し、被乗数と積の大小関係について考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)乗数に着目して、被乗数と積の大小関係を判断できる。《発言・ノート》
	5	40	○(小数)×(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(小数)×(小数)の立式と計算の仕方	(思判表)これまでの計算をもとにして、(小数)×(小数)の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(小数)の計算の仕方を理解し、計算することができる。《ノート》
		6	41	○小数をかけるかけ算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(小数)の筆算の仕方、積の小数点の位置
●練習	7	42	○積の末尾の 0 を消したり、積に空位の 0 をつけたしたりする場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(小数)×(小数)で 0 の処理を含む演算、×3.14 の筆算	(思判表)0 の処理や小数点の位置を論理的に考えたり、説明したりしている。《発言・観察》 (知技)小数のかけ算の計算について深く理解し、筆算で正しく計算することができる。《ノート・観察》
	8	43	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③小数のかけ算を使って	9	44～45	○辺の長さが小数の場合にも、面積や体積の求積公式が使えることを確かめることができる。	・辺の長さが小数値の場合の面積や体積の求積 ・ $1\text{mm}^2$ と $1\text{mm}^3$	(思判表)辺の長さが小数の場合にも求積公式が使えることを、筋道を立てて考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)辺の長さが小数の場合にも求積公式が使えることを理解し、適用することができる。《ノート》
		10	46～47	○小数の場合にも分配法則や交換法則、結合法則が成り立つことを確認し、それらを適用して工夫して計算することができる。	・小数の計算の交換法則、結合法則、分配法則

学びのまとめ	11	48～49	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)
--------	----	-------	----------------	-----------------------	-----------------

* 復習					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	50～51	○既習事項の確認と持続	・復習	

5 小数のわり算					
目 標					指導時数・時期
○ 小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して、小数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					12 時間 2 学期制：5 月下旬～6 月中旬 3 学期制：5 月下旬～6 月中旬
評 価					
(知) ・小数の除法の意味やその仕方を理解し、小数の除法の計算ができる。					
(思) ・小数の除法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えている。					
(態) ・小数の除法の式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して既習の比例や整数の除法をもとにして考えることよき気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数÷整数」	
(課題設定)	1	52	○生活場面から、小数でわるわり算について考えていくという単元の課題をつかむ。	・小数でわる学習の動機づけ ・(整数)÷(帯小数)の立式とその根拠	(態度)整数の場合との違いに着目し、小数でわる式や計算について考えようとしている。《発言・観察》 (思判表)図を用いるなどして数量の関係に着目し、小数でわる式の意味を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
①整数÷小数		53	○(整数)÷(帯小数)の場面を式に表し、除法の意味について考え、理解することができる。		
	2	54～55	○(整数)÷(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	・(整数)÷(帯小数)の計算の仕方	(思判表)見通しを立てて、整数を小数でわる計算の仕方を考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)整数を小数でわる問題で、式にかいて計算することができる。《ノート》
	3	56	○(整数)÷(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(整数)÷(純小数)の立式と計算の仕方	(知技)整数を純小数でわる問題で、式にかいて計算することができる。《発言・ノート》
	4	57	○除数の大きさによって、被除数と商の大小関係を判断することができる。	・除数と商の大きさの関係	(思判表)除数に着目し、被除数と商の大小関係について考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)除数の大きさから、被除数と商の大小関係を判断できる。《発言・ノート》
②小数÷小数	5	58	○(小数)÷(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(小数)÷(小数)の立式と計算の仕方	(思判表)これまでの計算をもとにして、(小数)÷(小数)の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)÷(小数)の計算の仕方を理解し、計算することができる。《ノート》
	6	59	○小数でわるわり算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)÷(小数)の筆算の仕方、商の小数点の位置	(態度)これまでの計算をもとにして、(小数)÷(小数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)÷(小数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	7	60	○被除数に空位の 0 をつけたしてわり進む場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(小数)÷(小数)で 0 の処理を含む筆算	(思判表)わり進むときの計算処理を順序立てて考えたり、説明したりしている。《発言・観察》 (知技)小数のわり算の計算について深く理解し、筆算で正しく計算することができる。《ノート・観察》
	8	61	○わり進む場合の筆算で、わり切れないときの商を概数で表すことができる。	・商を概数で処理する場合の筆算の仕方	(知技)商を四捨五入して概数で表すことができる。《ノート》
	9	62	○余りのあるわり算で、余りの大きさを正しく判断し、筆算で商と余りを求めることができる。	・被除数、除数、商、余りの関係	(思判表)除数と余りの関係をもとに、余りの大きさを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)余りのある小数のわり算の筆算ができる。《ノート》
●練習	10	63	○学習内容を確実に身につける。	・練習	

③計算の間の関係	11	64～65	○小数の加減や乗除についても、整数と同じ計算の間の関係が成り立つことを理解する。	・加法と減法、乗法と除法の相互関係	(態度)計算の関係に着目し、これまでに学んだ小数の式や計算をいかして□を求める計算の仕方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)小数の加法と減法、乗法と除法の関係を理解している。《ノート》
学びのまとめ	12	66～67	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 6 割合(1)

目 標					指導時数・時期
○ 割合や数量が小数で表された場面で、図や式を使って2つの数量の割合について調べたり考えたりすることを通して、小数倍の意味を理解するとともに、小数倍を使った計算を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：6月中旬～6月下旬 3学期制：6月中旬～6月下旬
評 価					
(知) ・小数倍で表される数量の関係について理解し、問題を解決することができる。					
(思) ・図や式を使って小数倍で表される数量の関係について考えている。					
(態) ・割合や数量が小数で表された問題に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係を小数倍で表して解決することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「割合」	
(課題設定)	1	68	○割合が小数で表される場面で、比較量と基準量から割合を求めることができる。	・テープの長さを比べることによる割合の動機づけ ・小数倍の意味と適用(第1用法) 《割合、くらべる量、もとにする量》	(態度)2つの数量の関係に着目し、図や式を使ってその割合を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)数量の関係に着目し、割合を求めて小数で表すことができる。《ノート》
		69			
	2	70～71	○割合や数量が小数で表された場面で、比較量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用(第2用法)	(知技)割合や数量が小数で表された場合の比較量を求めることができる。《ノート》
	3	72～73	○割合や数量が小数で表された場面で、基準量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用(第3用法) ・小数倍の問題場面における文、図、式をまとめること(第1、2、3用法)	(思判表)2つの数量の関係に着目し、図や式を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合や数量が小数で表された場合の基準量を求めることができる。《ノート》 (態度)図や式を使って2つの数量の関係について考えたことをふり返り、統合的にとらえたり、生活や学習にいかそうしたりしている。《発言・ノート》
4	74～75	○ $a \times b \times c$ の場面で、まとめて何倍になるかを考え方で解くことができる。	・3要素2段階の倍に関する問題(第2用法) ・3要素2段階の倍に関する問題(第3用法)	(思判表)オペレータに着目し、「aのb倍のc倍」を「aの(b×c)倍」として考えている。《発言・ノート》	

## 7 合同な図形

目 標					指導時数・時期
○ 合同な図形や多角形の角の大きさについて、図形を重ね合わせる活動を通して合同の意味を理解し、合同な図形の性質や作図の仕方を考えたり多角形の角の大きさを調べたりすることを通して、平面図形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月下旬～7月上旬
評 価					
(知) ・合同の意味や性質を理解し、頂点、辺、角の対応を見つけて合同な図形を作図することができる。また、三角形や四角形の内角の和についても理解している。					
(思) ・合同の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、合同な図形を作図の仕方或多角形の内角の和を考えたり説明したりしている。					
(態) ・平面図形の形や大きさに進んで関わり、ふり返りを通して構成要素に着目することのよさや三角形や四角形の場合をもとに多角形について考えていけばよいことに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「三角形」 ・4年「角とその大きさ」	
(課題設定)	1	76	○合同な図形について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○図形を重ね合わせる操作を通して、合同の意味を理解する。	・合同についての学習の動機づけ ・重ねる操作の仕方と合同の意味 《合同》	(態度)図形の形と大きさに着目し、重ねる操作を通して同じといえるかを考えようとしている。《観察》 (知技)図形を重ねる操作を通して、合同の意味を理解している。《発言・観察》
		77			

	2	78～79	○合同な2つの図形の頂点、辺、角の対応を調べ、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解する。	・合同な図形における構成要素の対応関係、対応することの意味、対応する構成要素の性質、合同かどうかの判断 《対応する頂点、辺、角》	(知技)対応する頂点、辺、角を見つけ、辺や角が等しいことを調べることができる。《ノート》 (思判表)頂点や辺の対応に着目して、合同な図形かどうかを判断し、その理由を説明している。《観察・ノート》
	3	80	○長方形や正方形、平行四辺形、台形やひし形を対角線で分けてできた2つの三角形を、合同の観点で考察し、図形についての理解を深める。	・四角形を対角線で分けて合同の観点で考察すること	(思判表)合同の意味にもとづいて、できた三角形が合同かどうかを考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)合同な図形を見つけることができる。《ノート・発言》
②合同な図形のかき方	4	81	・合同な三角形をかくための見通しを立て、いろいろなかき方を考えることができる。	・合同な三角形の作図の見通し(三角形の決定要素の考察)	(態度)三角形の構成要素に着目し、合同な三角形をかくために必要な条件を考えようとしている。《観察》 (思判表)合同な三角形のいろいろなかき方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	5	82～83	○合同な三角形のかき方を理解し、3つの方法で作図することができる。	・合同な三角形の3通りの作図	(知技)必要な辺の長さや角の大きさを測定し、合同な三角形をかくことができる。《観察》 (態度)合同な三角形のかき方をふり返り、いかそうとしている。《観察》
	6	84	○合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考え、作図することができる。	・合同な四角形の作図	(思判表)合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
③三角形・四角形の角	7	85～86	○三角形の敷き詰めや角を集める操作を通して、三角形の3つの角の大きさの和が180°になることを理解する。	・三角形の内角の和が180°になること	(態度)三角形の内角の和のきまりに気づき、いろいろな方法で調べようとしている。《観察》 (知技)三角形の内角の和が180°になることを理解している。《発言・観察》
	8	87	○三角形の内角の和のきまりを適用して、様々な問題を解く。	・三角形の内角の和の適用題	(思判表)三角形の内角の和が180°であることをもとに、角の大きさの求め方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	9	88～89	○三角形の内角の和が180°であることをもとに、四角形の内角の和をいろいろに考えて求めることができる。	・四角形の内角の和が360°になること	(思判表)三角形の内角の和が180°であることをもとに、四角形の内角の和の求め方をいろいろに考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)四角形の内角の和が360°であることを理解している。《発言・観察》
	10	90～91	○多角形について知り、三角形の内角の和が180°であることをもとに、多角形の内角の和について調べる。	・多角形の内角の和の求め方ときまり 《多角形》	(知技)三角形や四角形の内角の和をもとにして、多角形の内角の和を求めることができる。《ノート・観察》 (思判表)多角形の頂点を増やしたときの内角の和の変わり方のきまりに気づいている。《発言》 (態度)多角形の内角の和の求め方をふり返り、三角形や四角形の場合もとに考えることのよさに気づいている。《観察・ノート》
学びのまとめ	11	92～93	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

### 思 見方・考え方を深めよう(1)「もう1回! もう1回!」

目 標	指導時数・時期
○ 文章題において、数量の関係を表に整理してその増え方に着目して解法を考えることを通して、数の少ない場合から順に調べる考え方を使得解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。	2 時間 2 学期制：7 月上旬 3 学期制：7 月上旬～7 月中旬
評 価	
(知) ・伴って変わる2つの数量の関係を表に整理することができる。 (思) ・図や表をもとに考え、2つの数量の間のきまりを見いだしている。また、「数の少ない場合から順に調べる」ことのよさに気づき、これを活用して問題を解いている。 (態) ・伴って変わる2つの数量に関する問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係を表に整理して考えることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。	

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	94	○紙を折ってできる長方形の数について、折った回数が1のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	・伴って変わる2量の関係を表に整理し、変化のきまりを見つけて問題を解く( $an = an - 1 \times 2$ )	(態度)伴って変わる2つの数量の変わり方に着目し、表を使ってきまりを見いだそうとしている。《観察・発言》 (知技)見つけたきまりを使って問題を解くことができる。《発言・ノート》
	2	95	○階段状に色板を並べるときの枚数について、段の数が1のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	・伴って変わる2量の関係を表に整理し、変化のきまりを見つけて問題を解く( $an = an - 1 + n$ 、 $an = an - 1 + (2n - 1)$ )	(思判表)2つの数量の変わり方に着目し、表に整理して変わり方のきまりを見いだして問題を解決している。《発言・ノート》 (態度)表から変わり方のきまりをみつけて問題解決することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察・発言》

### 活 どんな計算になるのかな「金閣の金箔の量」

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●どんな計算になるのかな	1	96～97	○根拠にもとづいて、小数のかけ算やわり算の演算決定をすることができる。	・小数の乗除計算の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

### 活 算数の自由研究

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●算数の自由研究	1	98～99	○「しきつめもよう」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・算数の自由研究	(思判表)見通しをもちながら、敷き詰め方を考えている。《観察》 (態度)多角形の敷き詰めめに意欲的に取り組み、敷き詰められるときの図形の特徴を見いだそうとしている。《観察・発言》

### \* 復習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	100～101	○既習事項の確認と持続	・復習	

### 8 整数

目 標	指導時数・時期
○ 整数の性質について、偶数・奇数や倍数・約数の意味を理解し、倍数や約数の求め方を考えたりそれらを使って問題解決したりすることを通して整数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	10 時間 2 学期制：7月中旬～9月上旬 3 学期制：9月上旬～9月下旬
評 価	
(知) ・偶数・奇数の意味や倍数・約数などの意味を理解し、整数の性質についての理解を深め、整数を偶数と奇数に類別したり、倍数・約数などを求めたりすることができる。 (思) ・整数を偶数・奇数という観点から類別したり、倍数・約数という観点から考察したりしている。 (態) ・偶数・奇数、及び、倍数・約数に進んで関わり、ふり返りを通して整数の性質に着目して多面的にとらえることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。	

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「わり算」	
①偶数・奇数	1	102	○組分けの仕方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・整数の性質を使った分類整理の動機づけ	(態度)整数の性質を利用した組分けの仕方に気づき、いかそうとしている。《観察・発言》
		103	○整数を偶数と奇数という観点から類別できることを理解する。	・偶数、奇数の意味 《偶数、奇数》	(知技)偶数・奇数の意味を理解している。《観察・ノート》
②倍数と公倍数	2	104	○倍数の意味を理解し、いろいろな数の倍数を調べる。	・倍数の意味、いろいろな整数の倍数 《倍数》	(知技)倍数の意味を理解し、倍数を見つけることができる。《観察・ノート》
	3	105	○公倍数や最小公倍数の意味を理解し、公倍数や最小公倍数について調べる。	・公倍数、最小公倍数の意味 《公倍数、最小公倍数》	(知技)公倍数、最小公倍数の意味を理解し、見つけることができる。《観察・ノート》 (思判表)公倍数が最小公倍数の倍数になっていることに気づいている。《発言・観察》
	4	106	○公倍数や最小公倍数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	・公倍数の求め方の工夫、3つの数の公倍数	(思判表)公倍数の意味や性質をもとに、公倍数の見つけ方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)公倍数や最小公倍数の見つけ方を理解している。《発言・観察》

	5	107	○与えられた2つの数量の公倍数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	・公倍数を使った問題解決	(態度)公倍数が使えることに気づき、公倍数を使って問題を解こうとしている。《発言・ノート》 (思判表)公倍数を使って、問題を解くことができる。《ノート》
③約数と公約数	6	108	○約数の意味を理解し、いろいろな数の約数を求める。	・約数の意味、いろいろな整数の約数 《約数》	(知技)約数の意味を理解し、約数を見つけることができる。《観察・ノート》
	7	109	○公約数や最大公約数の意味を理解し、公約数や最大公約数について調べる。	・公約数、最大公約数の意味 《公約数、最小公約数》	(知技)公約数、最大公約数の意味を理解し、見つけることができる。《観察・ノート》 (思判表)公約数が最大公倍数の約数になっていることに気づいている。《発言・観察》
	8	110	○公約数や最大公約数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	・公約数の求め方の工夫、3つの数の公約数	(思判表)公約数の意味や性質をもとに、公約数の見つけ方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)公約数や最小公約数のみつけ方を理解している。《発言・観察》
	9	111	○与えられた2つの数量の公約数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	・公約数を使った問題解決	(態度)公約数が使えることに気づき、公約数を使って問題を解こうとしている。《発言・ノート》 (思判表)公約数を使って、問題を解くことができる。《ノート》
学びのまとめ	10	112～113	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 9 分数

目 標		指導時数・時期			
○ 異分母分数の加減計算や商としての分数を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		13時間 2学期制：9月上旬～10月上旬 3学期制：9月下旬～10月中旬			
評 価					
(知)・分数の通分や約分の仕方を理解し、異分母分数の加減計算ができるようにする。 ・商としての分数や分数と小数・整数の関係、何倍かを分数で表すことについて理解している。					
(思)・単位分数に着目して異分母分数の加法や減法の計算の仕方を考えている。 ・わり算の商や小数や整数、何倍かを表す数を分数で表す方法について考え、分数の意味を多面的にとらえている。					
(態)・分数の相当や加減計算、分数を用いる場面に進んで関わり、ふり返りを通して通分や約分の仕方や分数の意味を多面的にとらえることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「分数」	
①等しい分数	1	114	○分数の大きさ比べゲームを通して、分数について考えていくという単元の課題をつかむ。	・分数の大きさ比べを通しての学習の動機づけ ・分母・分子を等倍することによる等しい分数の作り方	(態度)異分母分数の相当に進んで取り組み、大きさの等しい分数のつくり方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)大きさの等しい分数をつくる ことができる。《ノート》
		115～116	○等しい分数のつくり方とその性質について理解する。		
	2	117	○等しい分数の性質をもとに、約分の意味とその仕方について理解する。	・約分の意味、約分の仕方 《約分》	(知技)約分の意味を理解し、分数を約分することができる。《ノート》 (思判表)効率よく約分するには、分母と分子の最大公約数でわればよいことに気づいている。《発言・観察》
	3	118	○等しい分数の性質をもとに、通分の意味とその仕方について理解する。 ○異分母分数の大小比較ができる。	・通分の意味、分母が互いに素な場合の通分の仕方 《通分》	(知技)通分の意味を理解し、分数を通分することができる。《ノート》 (知技)異分母分数の大きさの比べ方を理解している。《観察・ノート》
	4	119	○通分の仕方について理解を深める。	・分母が互いに素でない場合の通分の仕方、3つの数の通分の仕方	(思判表)効率よく通分するには、分母を最小公倍数にすればよいことに気づいている。《発言・観察》
②分数のたし算・ひき算	5	120	○異分母分数の加減計算の仕方を考え、理解することができる。	・異分母分数の加減(約分なし)	(思判表)分母をそろえればよいことに気づき、計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)異分母分数の加減計算ができる。《ノート》
	6	121	○答えが約分できる場合や3口の場合の異分母分数の加減計算ができる。	・異分母分数の加減(約分あり) ・3つの分数の加減	(知技)約分して答えを求めることができる。《ノート》 (知技)3口の異分母分数の加減計算ができる。《ノート》
	7	122	○帯分数どうしの加減計算の仕方を考え、理解することができる。	・帯分数の加減	(知技)帯分数を含む異分母分数の加減計算ができる。《ノート》
●練習	8	123	○学習内容を確実に身につける。	・練習	



③分数とわり算	9	124～125	○(整数)÷(整数)の商を分数で表せることを理解する。	・等分したときの式や分数の表し方 ・商としての分数の意味(分数の第二義) ・分数の約分・通分の操作と除法の商不変の操作の関連づけ	( <b>思判表</b> ) (整数)÷(整数)と分数の意味とを関連づけて考えている。《 <b>発言・観察</b> 》 ( <b>知技</b> ) 商を分数で表すことができる。《 <b>発言・ノート</b> 》
④分数と小数・整数の関係	10	126	○分数を除法の商と見て、分数を小数で表すことができる。	・分数を小数で表すこと(循環小数になるときの処理を含む)	( <b>態度</b> ) 分数は(分子)÷(分母)の商であるという見方を働かせ、分数を小数で表そうとしている。《 <b>発言・ノート</b> 》 ( <b>知技</b> ) 分数を小数で表すことができる。《 <b>ノート</b> 》
	11	127	○整数・小数を分数で表す方法を考え、分数と整数・小数を数として統合的にとらえる。	・小数・整数を分数で表すこと	( <b>知技</b> ) 整数・小数を分数で表すことができる。《 <b>ノート</b> 》 ( <b>思判表</b> ) 整数・小数と分数は表現方法の違いであることに気づき、数として統合的にとらえている。《 <b>発言・ノート</b> 》
⑤分数倍	12	128～129	○何倍かを表す数が分数になる場合があることを理解する。	・分数倍の意味(第1用法) 《 <b>分数倍</b> 》	( <b>思判表</b> ) 図や式を使って、2つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《 <b>発言・ノート</b> 》 ( <b>知技</b> ) 割合を分数で求めることができる。《 <b>ノート</b> 》 ( <b>態度</b> ) 割合を表すときにも分数が使えるよさに気づき、学習にいかそうとしている。《 <b>発言・ノート</b> 》
学びのまとめ	13	130～131	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	( <b>知技</b> )、( <b>思判表</b> )、( <b>態度</b> )

\* 復習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	132～133	○既習事項の確認と持続	・復習	

10 面積

目 標					指導時数・時期
○ 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めたり平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					14 時間 2 学期制：10 月中旬～11 月上旬 3 学期制：10 月中旬～11 月上旬
評 価					
(知) ・底辺と高さの意味や公式について理解し、三角形や四角形の面積を求めることができる。					
(思) ・既習の面積の求め方をもとに三角形や平行四辺形などの面積の求め方を考えたり、求積方法をふり返って公式を導いたりしている。					
(態) ・三角形や平行四辺形などの面積を求める活動に進んで取り組み、ふり返りを通して面積の求め方や公式のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	256	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「面積」	
①三角形の面積	1	134	○三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかむ。	・既習の面積のふり返りと学習の動機づけ	( <b>態度</b> ) いろいろな四角形や三角形の面積を求めることに関心をもち、見通しを立てて取り組みようとしている。《 <b>観察・発言</b> 》
		135～136	○直角三角形の面積の求め方を考えることができる。	・直角三角形の求積の仕方	( <b>知技</b> ) 長方形や正方形に帰着させて、直角三角形の面積を求めることができる。《 <b>ノート・発言</b> 》
	2	137	○三角形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・鋭角三角形の求積の仕方	( <b>思判表</b> ) 面積の求められる図形に帰着させて、三角形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《 <b>発言・ノート</b> 》
②平行四辺形の面積	4	140～141	○平行四辺形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・平行四辺形の面積の求め方	( <b>思判表</b> ) 面積の求められる図形に帰着させて、平行四辺形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《 <b>発言・ノート</b> 》
					5

	6	144~145	○高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考え、求積公式が適用できることを理解する。	・高さが外にある三角形や平行四辺形の求積	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、高さが外にある場合の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)高さが外にある場合も求積公式が使えるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察・ノート》
	7	146	○底辺の長さが等しく、高さも等しい三角形や平行四辺形は、面積も等しくなることを理解する。	・平行線にはさまれた平行四辺形や三角形の面積	(知技)底辺の長さが等しく、高さも等しい平行四辺形は面積が等しくなることを理解している。《発言・観察》 (思判表)底辺に対して平行に頂点を動かしても、三角形の面積は変わらないことに気づいている。《発言・ノート》
③台形・ひし形の内積	8	147~148	○台形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・台形の求積の仕方	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、台形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	9	149	○台形の求積公式を導く。	・台形の求積と公式 《上底、下底》	(知技)公式を使って、台形の面積を求めることができる。《ノート》
	10	150	○ひし形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 ○ひし形の求積公式を導く。	・ひし形の求積と公式	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、ひし形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)公式を使って、ひし形の面積を求めることができる。《ノート》
●練習	11	151	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
④面積の求め方のくふう	12	152~153	○一般四角形の面積を三角形に分割して求めることができる。	・三角形分割による多角形の求積	(思判表)四角形を三角形に分割すればその面積が求められることに気づいている。《発言・ノート》
⑤面積と比例	13	154	○三角形の高さや底辺の長さを変えたとき面積の変わり方を調べる。	・三角形の高さと面積(底辺と面積)の比例関係	(知技)三角形の面積は、高さや底辺の長さに比例することを理解している。《発言・ノート》
学びのまとめ	14	155~156	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 11 平均とその利用

目 標		指導時数・時期			
○ 平均について、その意味や求め方を理解し、いろいろな場面で平均を調べたり平均を使って考えたりすることを通して、その理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。		6時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬			
評 価					
(知) ・平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、平均を用いておよその数量を見積もったりすることができる。					
(思) ・部分の平均を用いて、全体の量を見積もる方法や全体の平均を求める方法を考えている。					
(態) ・数量の平均に進んで関わり、ふり返りを通して平均とそれを利用することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	256	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「小数÷整数」	
(課題設定)	1	157	○生活場面で量をならして考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・ジュースづくりを通しての学習の動機づけ	(態度)およその数量の見当をつけるには、量をならせばよいことに気づいている。《発言・観察》
①平均		158	○平均の意味や求め方について理解する。	・測定値の平均の意味とその求め方 《平均》	(知技)平均の意味を理解し、計算で求めることができる。《観察・ノート》
	2	159	○0を含む場合の平均の求め方や平均が小数になる場合があることを理解する。	・測定値に0がある場合の平均、平均が小数値になる場合 ・平均が小数値になる場合	(思判表)平均の意味をもとに、0の扱いについて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	160	○いくつかの平均から全体を見積もる方法を理解する。	・部分の平均から全体を見積もる、身のまわりの平均 ・算数探しの活動	(知技)部分の平均を求め、それを使って全体の量を見積もることができる。《ノート》
	4	161	○いくつかの部分の平均から、部分をあわせた全体の平均を求める方法を理解する。	・部分の平均から全体の平均を求める	(思判表)いくつかの部分の平均から、部分をあわせた全体の平均を求める方法を考えたり説明したりしている。《ノート》
②平均を使って	5	162~163	○測定値の誤差をなくす方法として平均を用いればよいことに気づき、それを活用する。	・1歩の歩幅の平均を調べる、歩幅を使った道のり調べ ・仮平均の利用 ・外れ値の意味、外れ値を除外したときの平均	(思判表)測定値に誤差があることに気づき、その誤差をなるべくなくす方法を考えている。《観察・発言》 (態度)歩幅などを調べる場合に、平均を用いるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察・発言》

学びのまとめ	6	164~165	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)
--------	---	---------	----------------	-----------------------	-----------------

12 単位量あたりの大きさ					
目 標					指導時数・時期
○ 混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4 時間 2 学期制：11 月中旬～11 月下旬 3 学期制：11 月中旬～11 月下旬
評 価					
(知) ・単位量あたりの大きさの意味や求め方を理解し、単位量あたりの大きさを求めたり、それを使って混みぐあいなどを比べたりすることができる。					
(思) ・2 つの数量が関係していることに着目し、混みぐあいなどの比べ方を考え、単位量あたりの大きさを使って程度の大小を表したり、判断したりしている。					
(態) ・単位量あたりの大きさに進んで関わり、ふり返りを通して一方の量を単位として混みぐあいなどを判断することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	256	○既習事項の理解を確認する。	・4 年「小数÷整数」	
	1	166 167~168	○混みぐあいの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○単位量あたりの大きさを混みぐあいを比べることができる。	・混みぐあいの比べ方の動機づけ ・異種の 2 量のそれぞれを単位とした比較	(態度)2 つの数量が関係していることに気づき、混みぐあいの比べ方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)単位量あたりの大きさを求めて、混みぐあいを比べることができる。《ノート》
	2	169	○数量の関係をもとに単位とする方の量を決め、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。	・異種の 2 量の一方を単位とした比較、単位量あたりの大きさの意味 《単位量あたりの大きさ》	(思判表)2 量のうちのどちらを単位にするとわかりやすいかを考えている。《発言・ノート》
	3	170	○単位量あたりの大きさのよさに気づき、人口密度や燃費といったよく用いられる単位量あたりの大きさについて知る。	・よく使われる単位量あたりの大きさ 《人口密度》 ・算数探しの活動	(態度)身のまわりから単位量あたりの大きさが使われている場面を見つけ、そのよさに気づいている。《観察・発言》
学びのまとめ	4	171	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう	(知技)、(思判表)、(態度)

思 見方・考え方を深めよう(2)「遊園地へゴー！」					
目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して同じものに着目して解法を考えることを通して、相殺や置換の考え方を使得解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2 時間 2 学期制：11 月下旬 3 学期制：11 月下旬
評 価					
(知) ・相殺や置換の考え方を理解し、それを用いて問題を解決することができる。					
(思) ・2 つの場面を図に整理して数量の大きさとして等しくなる部分を見だし、それに着目して問題を解決する方法を考えている。					
(態) ・未知の数量が組み合わさった場面に関する問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して相殺や置換のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	172	○数量の関係を図に表し、共通部分に着目して相殺の考え方を使得問題を解くことができる。	・相殺の考え方を使得解く問題	(態度)2 つの場面を図に表して、同じところや違うところを見つけようとしている。《観察・ノート》 (思判表)2 つの場面の同じものに着目し、それを差し引いて考えている。《ノート・発言》
	2	173	○数量の関係を図に表し、共通部分に着目して置換の考え方を使得問題を解くことができる。	・置換の考え方を使得解く問題	(思判表)2 つの場面の同じものに着目し、それを置き換えて考えている。《ノート・発言》 (知技)置換の考え方を理解し、それを使得問題を解決することができる。《観察・ノート》

13 割合(2)					
目 標					指導時数・時期
○ 割合について、その意味や百分率などの表し方を理解し、割合を使った問題や割合が増減する問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：11 月下旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬
評 価					
(知) ・割合の意味や百分率などを用いた表し方を理解し、数量の関係を正しくとらえて割合、比べる量、もとにする量を求めることができる。					
(思) ・数量の關係に着目し、割合を使得複数の事象の数量の關係を比較したり、割合の和や差、積を考えたりしている。					
(態) ・割合の学習に進んで関わり、ふり返りを通して数量の關係を割合で表すことや何倍になるかをまとめて考えることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	1	256 174 175	○既習事項の理解を確かめる。 ○定員と比べて希望者が多いのはどれかを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○割合の意味について理解し、割合を求めることができる。	・4年「割合」 ・希望者数の比較を通しての学習の動機づけ ・割合の意味とその求め方(第1用法) 《割合、くらべる量、もとにする量》	(態度)希望者が定員の何倍になっているかに着目して、比べようとしている。《発言・観察》 (知技)割合の意味について理解し、割合を求めたり割合で比較したりすることができる。《発言・ノート》
①割合	2	176	○全体と部分、部分と部分という関係をとらえ、割合を求めることができる。	・全体に対する部分の割合、部分に対する部分の割合(第1用法)	(思判表)数量の関係を図に表して、割合の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合を求めることができる。《観察・ノート》
	3	177	○全体と部分という関係をとらえ、基準量と割合から比較量を求めることができる。	・比較量を求める問題(第2用法)	(思判表)数量の関係を図に表して、くらべる量の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)比較量を求めることができる。《観察・ノート》
	4	178~179	○全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。	・基準量を求める問題(第3用法) ・3つの場面の文、図、式の理解	(思判表)数量の関係を図に表して、もとにする量の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)基準量を求めることができる。《観察・ノート》
	②百分率	5	180	○百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。 ○割合を求め、百分率で表すことができる。	・百分率の意味、小数と百分率の関係(割合を%で表す:第1用法) 《百分率、パーセント(%), 1%》
③割合を使って	6	181	○百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。	・百分率を使った問題(第3用法) ・百分率を使った問題(第2用法)	(知技)百分率を小数倍に置き換えて基準量や比較量を求めることができる。《観察・ノート》
	7	182	○歩合を使って、割合を表すことができる。	・割・分・厘 《割、分、厘、歩合》	(知技)歩合を使って割合を表すことができる。《観察・ノート》
	8	183	○基準量が違うときに、割合を使って増減を比べることができる。	・値段の上がり方を割合で比べること	(思判表)割合を使って、増減の大きさを比べたり考えたりしている。《発言・ノート》
③割合を使って	9	184	○歩合の増減が示された問題で、比較量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題(第2用法)	(態度)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしている。《観察・ノート》 (知技)割合の和や差を考えて、比較量を求めることができる。《ノート》
	10	185	○百分率の増減が示された問題で、基準量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題(第3用法)	(思判表)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合の和や差を考えて、基準量を求めることができる。《ノート》
学びのまとめ	11	186~187	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

### 活 人文字

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
思 人文字	1	188~189	○文字の形になるように一定の間隔で並んだ人の数と間の数の関係を図に着目して、問題を解く。	・人文字による植木算の問題	(思判表)人が並んだ形を、人数や間隔が変わらないように変形して単純化して考えている。《観察・ノート》

### 活 見積もりを使って

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●見積もりを使って	1	190~191	○ある数量以上の部分とそれ以下の部分を差し引いて結果を見積もり、判断することができる。 ○切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。	・差に着目して、差し引いて見積もる ・切り上げや切り捨てを使って見積もる	(思判表)1000や500との差を相殺して結果を見積もり、判断の基準とした数量をこえるかどうかを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (態度)どのように考えれば簡単に見積もれるのかをふり返り、生活や学習にいかそうとしている。《観察・作品》

\* 復習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	192～193	○既習事項の確認と持続	・復習	

14 円と正多角形

目 標				指導時数・時期	
○ 円と正多角形について、正多角形の構成や作図などの活動や円周の求め方を考えるといったことを通して、平面図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬	
評 価					
(知) ・正多角形の意味や性質について理解し、作図することができる。 ・円周率の意味を理解し、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。 (思) ・円や正多角形の性質に着目し、正多角形の作図の仕方を考えている。 ・円周と直径の関係に着目し、帰納的に考えて円周率を見いだしたり、円周や直径の求め方を考えたりしている。 (態) ・正多角形や円の考察に進んで関わり、ふり返りを通して正多角形の作図の仕方や円周率のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	256	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「合同な図形」	
(課題設定)	1	194	○紙を折って正多角形をつくり、正多角形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・折り紙作業による正多角形の動機づけ ・正多角形の内容 《正多角形》	(知技)正多角形の意味を理解している。《ノート・活動》
①正多角形		195			
	2	196	○円の中心のまわりの角を等分して正多角形をかき。	・中心角の等分割による正多角形の作図	(態度)正六角形の性質に気づき、そのかき方を考えようとしている。《観察・ノート》 (知技)円をかいてその中心角を等分すると、正多角形が作図できることを理解している。《観察・発言》
	3	197	○コンパスを使った正六角形の作図を通して、正六角形は合同な6つの正三角形で構成されることを知る。	・円周の等分による正六角形の作図、模様づくり	(思判表)円をかいてその円周を6等分すると、正六角形が作図できるわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
(課題設定)	4	198	○直径の違う輪を1回転させて進む距離を比べることを通して、単元の課題をつかむ。	・円を回転させたときの長さ調べによる円周と直径の依存関係への着目と学習の動機づけ 《円周》	(思判表)円とそれに内接する正六角形の周りの長さを比べ、円周が直径の3倍より少し大きいことを見いだしている。《ノート》
②円周と直径		199	○円に内接する正六角形について、周りの長さが直径のおよそ何倍かを調べる。	・内接する正六角形の周りの長さをもとにした円周の見積もり	
	5	200～201	○円周と直径の関係について調べ、円周率や円周を求める式について理解する。	・円周と直径の関係 ・円周率の小数第3位以下の数字 《円周率》	(知技)円周率の意味を知り、円周を求める式について理解している。《ノート》
	6	202	○円周率を用いて円周や直径を求めることができる。	・円周や直径を求める問題	(知技)円周を求める式を使って、円周や直径を求めることができる。《観察・ノート》 (態度)円周率のよさに気づき、身のまわりにある円の円周や直径を調べる活動に進んで取り組んでいる。《観察・発言》
③円周と比例	7	203	○円の直径と円周の関係を表にかいて調べ、円周は直径に比例することを理解する。	・直径と円周の比例関係	(知技)円周は直径に比例することを理解している。《発言・ノート》
学びのまとめ	8	204～205	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

15 割合のグラフ

目 標				指導時数・時期	
○ 身のまわりの事象について、帯グラフや円グラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬	
評 価					
(知) ・身のまわりの事象について、データの割合を表すには帯グラフや円グラフを用いるとよいことを理解し、帯グラフや円グラフをよんだりつくったりすることができる。また、統計的な問題解決の方法を理解することができる。 (思) ・目的にあわせて、データの収集・整理の仕方を考えたり、帯グラフや円グラフを適切に用いてデータの特徴を判断したりしている。また、得られた結果を多面的にとらえて結論について考察している。 (態) ・データの割合について進んで関わり、帯グラフや円グラフを使ってデータを整理することや結果を多面的にとらえることのよさに気づき、統計的な問題解決を生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	257	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「割合(1)」	

(課題設定) ①帯グラフと円グラフ	1	206 207	○帯グラフや円グラフについて調べていくという単元の課題をつかむ。 ○帯グラフと円グラフの仕組みを理解し、それらのグラフをよむことができる。	・みかんの収穫量による動機づけ ・帯グラフや円グラフのよみ方とその特徴 《帯グラフ、円グラフ》	(態度)データの割合を表したグラフに関心を持ち、その仕組みを調べようとしている。《観察・発言》 (知技)帯グラフや円グラフの仕組みを理解し、よむことができる。《観察・発言》
	2	208～209	○帯グラフと円グラフをかく。	・帯グラフや円グラフのかき方	(知技)帯グラフと円グラフをかくことができる。《ノート》
	3	210～211	○複数のグラフから情報を適切に読みとることができる。	・複数のグラフを関連づけて考察すること	(思判表)複数の表やグラフを関連づけて、どのようなことがわかるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	4 ・ 5	212～213	○統計的な問題解決の方法について知り、身のまわりの課題解決にいかそうとする。	・統計的な問題解決の方法	(態度)一連の統計的な問題解決の方法について関心を持ち、生活や学習にいかそうとしている。《観察・発言》 (思判表)身のまわりの事象から問題を設定したり、設定した問題が統計的な方法を用いてどのように解決できるかを考えたりしている。《観察・発言》
学びのまとめ	6	214～215	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

\* 復習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	216～217	○既習事項の確認と持続	・復習	

16 角柱と円柱

目 標			指導時数・時期		
○ 角柱や円柱について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。			6時間 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬		
評 価					
(知)・角柱や円柱の意味やその特徴について理解し、角柱や円柱の見取図・展開図をかくことができる。 (思)・立体図形の構成要素に着目し、角柱や円柱の特徴や見取図・展開図のかき方を考えている。 (態)・角柱や円柱の考察に進んで関わり、ふり返りを通して立体図形の構成要素や展開図を組み立てたときに重なる点や辺に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	1	257 218 219	○既習事項の理解を確かめる。 ○形あてゲームを通して、角柱や円柱について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○立体が角柱と円柱の2つに仲間分けされることや、底面、側面、曲面の意味や用語を理解することができる。	・4年「直方体と立方体」 ・立体の概念、角柱と円柱の弁別 《立体》 ・角柱と円柱の定義、その弁別、底面と側面の定義 《角柱、円柱、底面、側面、曲面》	(態度)面の形に着目し、立体を仲間分けしようとしている。《発言・観察》 (知技)角柱や円柱の意味を理解している。《ノート・観察》
	2	220～221	○底面や側面の形、それらの位置関係を調べることを通して、角柱、円柱について理解する。	・角柱と円柱の特徴	(思判表)構成要素の位置関係に着目して、角柱や円柱について調べている。《発言・観察》 (知技)角柱の底面、側面、頂点、辺の数を調べることができる。《発言・ノート》
	3	222	○角柱や円柱の見取図をかくことができる。	・角柱と円柱の見取図 ・算数探しの活動	(知技)角柱や円柱の見取図をかくことができる。《観察・ノート》
	4	223	○角柱の展開図のかき方を理解し、展開図を組み立てて角柱をつくることができる。	・角柱の展開図	(思判表)辺や点の重なりや面の位置関係に着目して角柱の展開図のかき方を考えている。《観察・ノート》 (知技)角柱の展開図をかくことができる。《観察・ノート》 (態度)角柱の側面は長方形に切り開けることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《発言・観察》
	5	224	○円柱の展開図のかき方を理解し、展開図を組み立てて円柱をつくることができる。	・円柱の展開図	(思判表)重なりに着目して側面の横の長さや底面の円周の関係に気づき、円柱の展開図のかき方を考えている。《観察・ノート》 (知技)円柱の展開図をかくことができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	6	225	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 17 速 さ

目 標					指導時数・時期
○ 速さについて、その比べ方や表し方を考えたり、いろいろな速さに関する問題を解決したりすることを通して、速さ・道のり・時間の関係の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：2月中旬～2月下旬 3学期制：2月中旬～2月下旬
評 価					
(知) ・速さの意味や求め方を理解し、速さを時速、分速、秒速などの単位を用いて表したり比べたりすることができる。 (思) ・単位量あたりの考え方をもとに道のりと時間の関係に着目し、速さの表し方を考えたり、道のりや時間の求め方を考えたりしている。 (態) ・速さに進んで関わり、ふり返りを通して単位時間に進んだ道のりを速さとするこのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	257	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「単位量あたりの大きさ」	
	1	226	○時間と道のりの関係として速さがとらえられることを知り、単元の課題をつかむ。	・速さの意味と学習の動機づけ ・速さの比べ方	(態度)生活経験をもとに、速さには時間と道のりが関係していることに気づき、速さを比べる方法を考えようとしている。《発言・観察》
		227	○単位量あたりの大きさを使って、速さを比べることができる。		(知技)1秒あたりの道のりや1mあたりの時間を求め、速さを比べることができる。《発言・ノート》
	2	228	○速さの表し方を理解し、時間の単位に応じて適切に表すことができる。	・速さを求める問題 《速さ、時速、分速、秒速》	(知技)速さは単位時間あたりの道のりで表されることを理解し、道のりと時間から速さを求めることができる。《発言・ノート》
	3	229	○速さと時間から、その道のりを求めることができる。	・道のりを求める問題	(思判表)速さの意味をもとに、道のりの求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)道のりを求めることができる。《ノート》
	4	230	○道のりと速さから、その時間を求めることができる。	・道のりを求める問題	(思判表)速さの意味をもとに、時間の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)時間を求めることができる。《ノート》
5	231	○時速と分速と秒速との相互の関係を理解し、いろいろな速さを比べることができる。	・時速・分速・秒速の関係 ・算数探しの活動	(思判表)速さを比べるには、時間の単位をそろえる必要があることに気づいている。《発言・ノート》 (態度)速さの表し方のよさに気づき、身のまわりから速さが使われている場面を調べる活動に進んで取り組んでいる。《観察・発言》	
学びのまとめ	6	232～233	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 18 変 わ り 方

目 標					指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量について、その関係を○や△を使って式に表したり表に整理して変わり方を調べたりすることを通して、変化の特徴をとらえたり比例するかどうかを判断したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					3時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬
評 価					
(知) ・伴って変わる2つの数量の関係を、○や△を使って式に表したり、表にかいて変わり方を調べたりすることができる。 (思) ・伴って変わる2つの数量を見いだして、その関係を式や表を用いて考えたり、比例するかどうかを判断したりしている。 (態) ・伴って変わる2つの数量の関係に進んで関わり、ふり返りを通して○や△を使ってその関係を式に表すことや表を用いて考察することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	257	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「変わり方」	
	1	234	○和暦と西暦の関係を調べることを通して、単元の課題をつかむ。	・伴って変わる2つの数量に着目すること	(態度)伴って変わる2つの数量を見いだし、その数量の変化や関係を調べようとしている。《発言・観察》
		235	○差一定の2量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	・ $y=x+a$ となる関係についての考察	(知技)数量の関係を、○や△を使って式に表したり、表を使って調べたりすることができる。《ノート》
2	236～237	○比例する2量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	・ $y=a\times x$ となる関係についての考察 ・道のりと時間の比例関係	(知技)数量の関係を○や△を使って式に表すことができる。《ノート》 (思判表)表を使って変わり方を調べ、2量が比例していることに気づき、その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・観察》	

	3	238～239	○やや複雑な2量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	・ $y=a \times x + b$ となる関係についての考察	(知技)数量の関係を○や△を使って式に表すことができる。《ノート》 (思判表)表を使って変わり方を調べ、2量が比例していないことに気づき、その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
--	---	---------	---	-----------------------------------	--

### 思 見方・考え方を深めよう(3)「いつ会える？」

目 標					指導時数・時期
○ 速さの文章題において、時間と道のりの関係を表に整理して道のりの和や差の変化に着目して解法を考えることを通して、変わり方のきまりを見つけて解くことができるようにするとともに、用いた見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
評 価					
(知)・時間と道のりの関係や道のりの和や差の変化を表に整理することができる。 (思)・絵や表をもとに考え、道のりの和や差の変化のきまりに着目し、これを活用して問題を解決している。 (態)・速さに関する問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係や変化を表に整理して考えることや表からきまりを見いだすことよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	240	○出会うまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決する。	・2量の和の変わり方に着目する問題(出会い算)	(思判表)変化する数量の和に着目し、きまりを見つけて解決している。《発言・ノート》
	2	241	○追いつくまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決できる。	・2量の差の変わり方に着目する問題(追いつき算)	(思判表)変化する数量の差に着目し、きまりを見つけて解決している。《発表・ノート》

### 活 わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●わくわくプログラミング	1	242～243	○直進と回転の命令を組み合わせて、正多角形を作図するプログラムを作ることができる。	・直進と回転を繰り返して正多角形を作図するプログラミング	(態度)プログラムをつくることに関心をもち、いろいろ試しながら取り組んでいこうとしている。《観察・発言》 (思判表)正多角形の外角に着目すればよいことに気づき、回転角の大きさを考えている。《観察・発言》

### 活 わくわく SDGs 「エネルギーをたいせつに使おうプロジェクト」

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●わくわく SDGs	1	244～247	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、エネルギーについての問題を解決する方法を考える。 ○エネルギーについての課題を話し合い、課題解決に向けた計画を考える。	・集めたデータを活用した問題の発見と解決	(知技)文章、表、グラフから問題を解くのに必要な情報を選択することができる。《発言・ノート》 (思判表)文章、表、グラフを関連づけて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)算数で学んだことをいかして、自身の生活や地域社会のことを見直そうとしている。《観察・ノート》

### \* もうすぐ6年生

ページ	学習内容	指導時数・時期
248～252	○5年生の学習内容の確認と持続	3時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

### ★ 学びのサポート

ページ	学習内容	指導時数
254～257	・じゅんぴ	
258～270	・もっと練習	
271～280	・答え、図のかき方、学びをつなげよう、さくいん	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。